

BRICS はグローバルな勢力バランスを変えた

ヴィジャイ・プラシャド著、脇浜義明訳、田中一弘補訳

*脚注はすべて訳注

原典：Tricontinental Institute for Social Research, 2023年8月18日

しかし自分たちだけで世界変革をするのではない

2003年3月、ブラジル、インド、南アフリカの政府高官が医薬品貿易に関して相互の利益を図ろうと、メキシコで会議を開いた。当時、インドは、HIV-AIDS 治療薬を含む様々な医薬品の世界最大の生産国のひとつであったし、現在もそうである。ブラジルと南アフリカは、HIV やその他の治療可能な病気で苦しむ患者のために安価な薬を必要としていた。しかし、この3国は、世界貿易機構が定めた厳しい知的財産権法のために、安価で安心な薬の自由な貿易を禁じられていた。この会合の数か月前に、この3カ国は、それぞれの頭文字をとった IBSA という対話フォーラムを形成して、知的財産権が自由な貿易の障害となること、及び豊かなグローバル北の国が貧しいグローバル南に政府に農業補助金を出すなという不当な要求について、議論していた。ここで見られる議論の枠組みは、グローバル南とグローバル南の間の協力という概念である。

南の国の間に協力関係を築く考えが始まったのは1940年代である。国連経済社会理事会在アジア、アフリカ、ラテンアメリカの植民地から独立した国々間の交易を援助するプログラムを企画したときである。それから60年後にIBSAが形成されたとき、国連は2004年12月19日を「国連南南協力デー」として、その精神を祝福した。そして同時に南南協力特別専門部を設立した（この専門部は10年後の2013年に国連南南事務所（UNOSS）と改名された）。それは、1988年の開発途上国間貿易特惠世界システム協定に立脚したものであった。この協定には、2023年現在、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの42カ国が参加、全体として40億人の人々が16兆ドルの市場を構成している（世界の商品輸入額の約20%）。この南南貿易促進プロジェクトが、2009年に発足したブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカで構成される BRICS の前身であることを銘記することが重要だ。

BRICS プロジェクトで中心的問題となるのは、新植民地主義の従属部に位置する国々が、BRICS の相互貿易と協力を通じて、新植民地主義システムのくびきから解放されるか、それとも相変わらず大国（BRICS の中の大国も含む）が小国を従属させる不均衡を存続させ、不平等と格差を再生産することになるのか、ということである。最新のマルクス主義従属論の論文は、周辺部小国が負債を輸入し安価な商品（原材料など）を輸出するという資本主義プロジェクトが続く限り、新植民地主義システムから脱却できないのではないかと、疑問を投げかけている。BRICS プロジェクトに限界があるとしても、南-南貿易が促進され、南のためのいろいろな機関（例えば開発資金調達のための金融機関の発展）が開発されれば、それが直ぐに新植民地主義システムを乗り越えることがないにしても、そのシス

テムへの挑戦となることは明らかである。我々 3大陸社会研究所 (Tricontinental: Institute for Social Research) は BRICS プロジェクトの発足の当初からその発展と矛盾を継続的に研究している。

今月後半、8月22～24日にかけて、南アフリカのヨハネスブルクで第15回 BRICS サミットが開かれる。BRICS メンバーのロシアと中国が米国及び同盟諸国との間の新冷戦に直面し、他のメンバー国もウクライナと台湾に関する対立に巻き込まれる大きな圧力を米国等から受けているときに開かれるサミットである。サミットへの準備ブリーフィングとして、ブリーフィング No.9 が「冷戦は嫌だ」(No Cold War)¹の協力により発行された。それは短いが必要な要点を述べたもので、以下に引用する。

南アフリカのヨハネスブルクで開催される第15回 BRICS サミット (8月22～24日) は歴史を変える可能性がある。2019年にブラジルのブラジリアで開いたサミット以来、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの首脳が直接顔を併せて話し合うことになる。今回のサミットはウクライナ戦争開始後18ヶ月になる時期に開催される。ウクライナ戦争を通じて米国主導の西側勢力はロシアとの緊張関係を前の冷戦以上のレベルに引き上げたばかりでなく、グローバル北とグローバル南の相違が浮き彫りになった。

米と EU が NATO、国際金融システム、情報支配 (従来の情報手段とソーシャル・メディア・ネットワーク)、見境のない一方的制裁などを通じて世界を一極的に支配してきた体制に亀裂が生じ始めた。アントニオ・グテレス国連総長が最近言ったように、「ポスト冷戦期は終わった。新しい世界秩序への変化が始まっている」のだ。

こういう情勢の中で開催するヨハネスブルク・サミットで議論すべき課題は3つある。1) BRICS への加盟国を増やすこと。2) 新開発銀行 (NDB) に加入する国を増やすこと。3) 米ドル支配に代わる体制の開発に NDB が役割を果たすこと。南アフリカの BRICS 外交官アニル・スークラルによれば、すでに22カ国が正式に BRICS グループへの加盟を申請 (サウジアラビア、アルゼンチン、アルジェリア、メキシコ、インドネシアなど) しており、さらに加盟に興味を示している国が20数カ国ある。BRICS には克服すべき課題が多くあるが、BRICS は世界から、とりわけグローバル南から、世界経済と経済発展の牽引力になると見做されている。

現在の BRICS

過去10年間に BRICS はいくつかの問題に直面した。インドでヒンズー教至上主義者ナレンドラ・モディが首相になり、ブラジルでジルマ・ルセフ大統領がクーデターで政権

¹ 新冷戦は人類の利益に反するとして米政府の中国に対する攻撃的発言と行為を非難する声明。台湾の左派政党の台湾労働党とのインタビューを公表している。

を奪われ、BRICSの2国が米政権寄りの右翼政権となった。両国はBRICSから遠ざかった。創設当時からBRICSの推進力であったブラジルが事実上BRICSから抜けたのは大きな痛手であった。この変化はNDBと、BRICSの制度的成果として最も大きい業績と言える「偶発的準備金に関する取り決め」(Contingent Reserve Arrangement; CRA)にブレーキをかけた。NDBはこれまで約328億ドルの融資をするなど、ある程度進展したが、最初に立てた目標には届かなかった。一方、国際収支が悪くて国際準備金がない国、つまり流動性問題を抱えている国を支援するために1000億ドルの資金を用意していたCRAの発動は一度もなかった。

しかし近年再び変化が起きて、BRICS事業が再活性化した。米とEUが仕掛けた新冷戦による対立のエスカレートにロシアと中国が応答したこと、2022年にブラジルでルイス・イナシオ・ダ・シルヴァが大統領に復帰したこと、その結果ジルマ・ルセフがNDBの頭取になったこと、程度の差はあるがインドと南アフリカが西側勢力と相対的に距離をおくようになったこと、これらが西側にとって「パーフェクト・ストーム」(大嵐)となり、BRICSにとっては政治的統一感が再建されたように思えた。(もともと、BRICS内でインドと中国の間の緊張が解けていないが)それに、世界経済におけるBRICSの重みが増し、加盟国間の経済交流が強化された。2020年、購買力平価で測ったBRICSのGDPの世界に占める割合(31.5%)はG7のそれ(30.7%)を超えた。この差は今後もっと大きくなる気配である。BRICS内の二国間貿易は飛躍的に伸びた。ブラジル・中国貿易は毎年伸び、2022年に1500億ドルに達した。ロシアからのインドへの輸出は2022年4月から12月の間に前年比3倍増し、328億ドルとなった。中国・ロシア貿易は2021年の1470億ドルから2022年には1900億ドルとなり、ほぼ30%の伸びである。

ヨハネスブルク・サミットの課題

このダイナミックな国際情勢の中で成長拡大するためにはBRICSはいくつかの重要な問題に立ち向かわなければならない。

BRICS加盟を希望している国々に対して、それぞれの国に有利になる具体的対応をしなければならない。BRICSが加盟国を増やして拡大すれば、当然政治的・経済的重みも増加し、さらに加盟国は地元の地域基盤を強化する可能性がある。しかし、拡大のためには、加盟条件も決定しなければならないし、規模が大きくなれば、コンセンサス構築に複雑で柔軟な手法が必要となる。そういうことが意思決定や運動方針の決定に時間と手間がかかり、内容的に変質を招くという危険を伴うようになるかもしれない。こういう問題にどのように対処すべきか。

NDBの財務能力を強くするにはどうすればよいか。NDBとグローバル南の開発銀行やその他の多国間開発銀行との協力関係をどう築くか。NDBはBRICSのシンクタンク・ネットワークと協力してグローバル南の発展政策を打ち出さなければならないが、どのよう

にそれに着手するか。

BRICS 加盟国の外貨準備はしっかりしている（南アフリカが若干不安定だが）ので、彼らが CRA を利用する必要はないだろう。CRA の資金は IMF など西側金融機関や国の政治的脅迫で苦しんでいる貧しい国に提供されることになる。IMF は融資条件として国民に飢餓を強いる緊縮財政を強要する。

BRICS は米ドルを使わないで貿易や投資ができるように準備通貨の創造を検討していると伝えられる。そういう通貨が出来ればドル支配から抜け出す方向への一歩前進となるだろう。しかし、問題は残る。そういう通貨の安定をどのように確保するか。すでに行われているドルを使わない二国間貿易、例えば中国・ロシア貿易、中国・ブラジル貿易、ロシア・インド貿易との調整をどうするか。

ブラジルと南アフリカのような国の再工業化、特にバイオテクノロジー、情報テクノロジー、人工知能、再生可能エネルギーなどの戦略部門における再工業化を協力と技術移転でどのように支援するか。その再工業化が貧困と格差の撲滅に如何に寄与するか。グローバル南の人々の基本的必要にどのようにして応じるか。これらはサミットで議論すべき重要な課題であろう。

ヨハネスブルク・サミットにはグローバル南の 71 カ国の指導者が招待されている。習近平、プーチン、ルーラ、モディ、ラマポーサ、ジルマは上に述べた課題に応え、世界発展のための緊急課題で前進するために、多くのことをしなければならない。

我々 3 大陸社会研究所は BRICS に注目してその動きを追跡する。BRICS が世界の救世主だという幻想を持たないし、反対に BRICS を別に新しいものではないと冷笑する姿勢も持たずに、BRICS の発展と変化を見ていく。歴史は純粹理論で動くのではなく、矛盾と葛藤で動くのだ。

ヨハネスブルク・サミットに集まる指導者たちは南アフリカの途方もなく大きい不平等を目にしなければならない。この不平等こそが、南アフリカの詩人ヴァナナニ・ビラの詩の種である。ビラの声はリンポポ州の貧民窟シャーリー・ビレッジから聞こえてくる。そして、BRICS が今後歩まなければならない長い長い道のりを我々に思い起こさせる。

太陽が沈み

ソートパンスバーグ山脈の陰に隠れると

ギヤニ・ブロックは

黒い毒蛇の上着を着る

それは死と絶望の鏡

医師と看護婦は立っている

労働者のストライキが燃え上がっているので

彼らは休めないのだ

つま先立ちして
顔をあげて
顔も尾っぽもない怪物と
格闘しているのだ²

² ビラの「ギヤニ・ブロック」という詩の冒頭部分。